

## 「いきいき運転講座—運転終活について作業の視点を踏まえて考えてみよう！—」

富高史裕

半田市立半田病院

運転にはその人なりの意味や目的があります。運転をすることで自分らしい生活を送ることができ、社会とつながり、生きがいを持つこともできます。自分の運転の特徴を知り、安全に運転を継続し、自分の意志で運転を終えることができたらいつまでも自分らしい生活を送ることができるのではないのでしょうか。高齢化が進む現在、趣味や生きがいを続けることは健康寿命を延ばすために必要だといわれています。

75歳以上の免許所有者は増えています。75歳以上の高齢者の事故も増えています。世間では免許返納を推進する動きが活発になっています。毎日のように高齢者の事故や逆走の報道がされています。一方で、免許を返納したために移動手段がなくなり、外出が減り長く続けた趣味や生きがいを辞めてしまったという話も聞きます。都心部のような交通網が発達していない地域では買い物や通院に車は必要です。運転を辞めなくてはとも思っても、車がないと買い物や通院に困るため辞めることができないでいる、という話も聞きます。車に代わる移動手段としてバスやタクシー、電動カートなどが推奨されています。しかしこれらは車に比べ時間や速度、自由度など制約が多いのも現状です。

OTとして高齢者の運転にどう向き合えばいいのでしょうか。脳梗塞や事故により運転を一時中止した人に対して再開をするための支援の動きは増えてきています。どのような評価が効果的なのか、再開が可能なレベルはどれくらいなのか。ドライブシュミレーターを導入したり、企業と提携して実地指導を行ったりする病院も増えてきています。しかし運転を安全に継続するにはどうしたらいいのか、免許返納後の生活や移動手段について考える機会はまだまだ多くありません。

免許返納について相談されたらどう答えますか？あなたの地域にはどのような公共交通機関がありますか？それを使ってあなたは通勤や買い物をすることができますか？

運転の継続や中止を決めることはOTにはできません。しかし自己決定のための選択肢を増やす支援はできます。皆さんと一緒に困りごとを共有し、一つでも多く選択肢を増やしてみませんか。